

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習指導	a 始業のベルとともに授業に入り、スムーズに学習に取り組めるよう努める。	ベル着を励行し、落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組むことができたと回答した生徒は８８％→８５％と減少した。目標の９０％を達成できなかった。 教職員のベル着に対する自己評価の結果は、「おおむね取り組ませることができた」が半数をしめている。	全体として目標を達成できていない。「全く取り組むことができなかった」生徒が４名、「あまり取り組むことができなかった」生徒が６名いた。学年が進むに従ってベル着の意識がおろそかになっている傾向がある。一部の生徒の影響でクラスの雰囲気が悪くならないよう引き続き教職員がベル着を念頭に置いて授業に臨むことが必要である。 教職員がベル着の意識を高く持つことで目標達成は十分可能であると考えられるので、今後も授業の開始、終了のメリハリが失われることのないよう注意して取り組んでいく。
	b ICT機器を活用した教材・教え方の工夫や城東スタンダードの活用により、生徒主体のわかりやすい授業をするとともに、成績不振者に対して個別指導を行い、基礎学力の向上に努める。	最後まで授業に興味を持って参加できたと回答した生徒は、７８％→８０％に増加し、目標に達した。また、保護者の授業に対する満足度は８１％→８３％と増加し、目標に達しているが、一昨年の９２％には戻っていない。 ICT機器（タブレット）を利用した学習が定着する一方で、プリント学習など生徒に基礎学力を定着させるための時間が削られていると思われる。 成績不振の生徒一人ひとりの状況にあわせて基礎学力の定着を図る指導ができたと考える割合は１００％で、目標を達成できている。	ICT機器の授業での利用によって、生徒の学習への興味が増し、授業も工夫改善されている。基本的な学力が身につけていない生徒の層が大きくなっているので、タブレットを利用した学び直しが必要である。今後も少人数での指導が不可欠であり、生徒一人ひとりに合わせた授業をつくっていく必要がある。 生徒が学習活動に対して感じる達成感や充足感を大切にしている。日常の授業、教職員の研修、情報の共有など、ICT機器を効果的に活用するよう継続して努力したい。
2 生徒指導	a 全教員が容儀検査や指導にあたることで、高校生らしい容儀の理解を深めていく。遅刻指導については、家庭との連携をより強めることで、全体の遅刻数減少を目指す。	２年前から、容儀規定遵守を働きかけることと家庭と連携しながら遅刻指導を行うことを１項目にまとめて実施している。全教員が共通理解を持ち、取り組むことができた。生徒は、８９％で目標を達成することが出来、服装、頭髪などの校則を守ろうとする意識の向上が見られた。遅刻に関しては多くの生徒が、時間を守ろうとする意識の高揚が見られた。今後もこれまで同様に周知徹底をはかる必要がある。保護者においては、今年度は目標を達成することが出来ず、今後はより一層家庭との連携を図り、協力を依頼していく必要があると考える。引き続き２項目の遵守を心がけるよう指導していきたい。	教職員の回答は昨年度に引き続き１００％であった。全教員が容儀規定ならびに指導方針を十分理解し、それぞれの指導方法や意識に温度差が生じないようにより確実な共通認識を形成する。保護者に対しても生徒が生活習慣をよりよく改善できるよう今年度同様協力を要請し、電話や書簡などで生徒の現状を伝えるなど連絡体制の強化を図りたい。来年度も生徒の目標指数を達成できるように、生徒の意識向上に努めたい。
	b 生徒の不適切な言動に対して速やかにその場で指導する。また、定期的にアンケート、面談を実施する。	今年度も、いじめの発生を防ぐため、教職員は生徒の不適切な言動に対して速やかに指導し情報共有が重要であるということを共通理解し取り組むことができた。来年度も更なる情報共有が必要である。生徒についても他者の気持ちを理解し、不適切な言動を避けるという目標を達成できた（９１％）。さらに、保護者も子どもが努力している様子を家庭で確認でき、目標を大きく上回った（８６％）。今後も生徒の不適切な言動は許さないという共通理解を持ち指導を行っていく必要がある。	教職員の回答は、１００％であった。生徒保護者共に目標を大きく上回った。来年度も定期的にアンケートや面談を実施しながら、生徒の様子を把握し、気がかりなことがある場合は速やかに指導を行う。他者に対して不適切な言動を避けるとともに、他者の気持ちを理解し思いやりのある言動を心がけることを目標に、達成できるように工夫していきたい。保護者に対しても学校内での生徒の様子を保護者会などで積極的に伝え、更なる協力体制を構築していくことが必要である。
3 進路指導	a 進路に関する適性検査や講演会・ガイダンスを通して、自分の進路について考え、就労意欲が高まるよう働きかける。	行事、検査に関しては、適性検査・一般常識問題、職業別ガイダンス、職業講話、サマー求人企業説明会などに加え、進路講演会やガイダンスなどコロナ禍で中止になっていたものを加え、ほぼ予定通り実施することができた。また、昨年度までのビジネスキルアップセミナーが就職サポートセミナーと名称がが変更され、各学校の特性に合わせて内容を選択できるようになった。本校は、ビジネスマナーを取り上げた講座を選択した。４年目を迎えた職業講話は、今年も好評であり、丸岡ロータリークラブの講師の方の尽力で、生徒の仕事に対する知識、意識の向上に良い影響を与えている。生徒の回答結果においてＡ＋Ｂの割合が徐々に上昇してきたが、今年度は昨年度の７４％から７２％と停滞したが、今後も地道に取り組み目標達成を目指したい。	ガイダンスや講話などの行事や検査については、現在行っているものを継続しながら、生徒の進路、職業への意識・意欲が高まるよう内容の改善に努めたい。生徒の評価が高い、進路ガイダンスや職業講座のように少人数で身近な内容を積極的に取り入れていきたい。また、現在も行っている特定の生徒に対する職業体験を拡充すること、時期に応じた適切な進路情報を精選して各学年に与えることで、生徒が進路を考える機会、環境を整えていきたい。 また、適性検査や一般常識問題、社会人基礎力講座などを担任の協力の下行い、進学、就職に必要な知識の定着を図りたい。
	b ハローワークなど関係機関と連携しながら、個々の生徒に応じた進路指導を行う。	就職関係は、概ねコロナ禍以前のスケジュールで進めることができた。就職を希望する生徒に対して、担任やハローワーク、産業人材コーディネーターの協力の下、適切な指導を行った。個々の生徒の希望、職場見学を重視し、すべての生徒が内定を得ることができた。進学に関しては、指定校、推薦選抜などの制度をを利用して進路先を決定した。試験対策への取り組みは、Ａ＋Ｂの数値が基準に届かなかったが昨年度より増加している。また、多様化する生徒への対応も課題である。	本校の生徒にとって、就職や進学が間近に迫ってから試験対策を始めても、期日までに必要な学力をつけることは難しい。一、二年次から、一般教養の基礎学力を定着させることが重要である。その実現のため、日頃の授業に真面目に取り組み、一般常識問題の演習に力を入れたい。同時に、生徒の意欲を上昇させるために、キャリア教育の充実に取り組んでいきたい。また、これまで同様、全教職員による面接や作文指導を継続し、生徒の「読む」「聞く」「話す」力が向上するよう努めたい。
4 教育相談	生徒との日常的な関わりを大切にし、生徒の抱える問題の早期発見に努め、家庭、関係機関、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携により適切に問題解決を図る。	「校内で心の悩みや問題を相談できる」生徒の割合が７１％から７５％に上昇した。日頃から生徒に声を掛け、相談しやすい関係を作ることができるよう、生徒全員を学校全体で見守る学校作りに励みたい。ＳＣだけでなく、ＳＳＷ、養護教諭、病院などとも連携し、役割分担して支援していくことが今後も課題である。 ＪＯＹの時間を活用し、専門機関より講師を招聘し、共生社会の理解、法教育、コミュニケーション術等の講演会を企画・運営した。教員以外の大人からの専門家からの話から得た知識を自己の生活に活かそうとする姿が見られた。来年度も継続して実施していきたい。	来年度は、教育相談担当（ＳＣ、ＳＳＷ、養護教諭も含む）だけでなく、担任面談の時間を複数回設定し、個別に相談できる機会を意図的に設けたい。また、新入生が早く学校生活に適応し、安心して安全な学級づくりを促すため、引き続きＳＣによる新入生面談を行いたい。 良好な人間関係の構築を目指した授業（ＪＯＹ）は例年通り、年間を通じ、計画的に実施していく。 外部機関と連携し、教職員に対する校内研修（教育相談、合理的配慮が必要な生徒、特別支援教育に関する課題、通級による指導に関する内容について）を企画・運営していく。
5 環境衛生	身の回りの整理整頓と校内の清掃活動が習慣化するように、適切な声かけを行う。また、自己の健康管理の意識向上に取り組む。	年々、清掃に真面目に取り組む生徒が増えている。自分の担当清掃場所に行かず、不真面目な態度を見かけることもあるが、教師の声かけを受けて、再度取り組んでいる。教師の働きかけは十分になされており、また、清掃中に音楽を流すことで、自発的に清掃に向かっている。今年度は目標の８５％を達成し、８５％の生徒が取り組めていると自己評価している。しかし、入学者の減少により、各清掃場所の人数も減っているため、清掃場所が広範囲となり教師の目の行き届かない箇所も多々あった。教師一人の担当場所も広範囲になっているので、生徒一人ひとりがさらに自発的に清掃に向かうよう指導する必要がある。	適切な清掃分担になるよう、生徒の特性を担任と連携して確認し、清掃に向かうよう促す。また、一定の期間様子を見て、清掃分担を変更しても良いこととし、清掃監督の教師と連携をする。生徒一人ひとりが自発的に清掃に向かうように、各清掃場所での作業内容を明確にし、清掃監督のチェック体制を強化する。 チェック表を作成し活用させてい。更なる改善策として、級友と生活環境を整えることをよいこととする意識の醸成に努める。家庭での生徒の取り組みが保護者から見て６０％と低かったので生徒には家庭でも学校同様自発的に清掃活動、健康管理に取り組むように指導する。
6 読書指導	「ハートフルタイム」での読書活動や「ハートフルだより」を通して、読書に対する意欲や興味を育成する。	「生徒が読書活動に真剣に取り組んでいる」「生徒は読書活動に真剣に取り組んでいる」の２項目は、増減はあるが目標指数前後の数値を維持しているが、語彙力・読解力に関する生徒・保護者の項目は、昨年度より減少し目標指数との差が広がった。「ハートフルタイム」は毎日の読書習慣をすべての生徒に定着させることが第一義であり、その成果は上がっており、今後も担任の協力のもと継続して行っていく。多様な生徒がいる中で、この活動を語彙力・読解力の定着に繋げていくかが課題である。	生徒が社会に出たときに役に立つコミュニケーション能力を培うために、基礎となる語彙力・読解力を高めることが必要である。そのために、現在の「ハートフルタイム」を継続し、並行して言語活動の充実、読書環境の工夫、読書意欲の喚起や啓発活動に取り組んでいきたい。例えば、新聞記事を紙媒体やネットを利用して扱うなど各教科の学習に関連した読書計画や、授業時間の図書館の利用などの工夫を行い、豊かな言語力と感性を持つ生徒を育成していきたい。